

日銀支店長が語る

経済よもやま話

第7回 歴史的な繋がり



日本銀行仙台支店長 岡山 和裕

山形県庄内地方探訪

私は大河ドラマが好きである。その大河ドラマは、戦国時代と明治維新を取り扱うことが多い。それは、歴史的な登場人物の喜怒哀楽や離合集散がテーマとなるほか、やはり日本の歴史や人々の生活が、戦国時代や明治維新の時期に大きく変わったということではないだろうか。

なぜこのような書き出しになったかと言うと、少し前に、山形県庄内地方にお邪魔したからだ。

実を言うと、私が日銀本店で一般広報の仕事をしている時に、日銀の広報誌において鶴岡市を特集したことがあった。私は取材に行きたかったのだが、部下から「課長（筆者のこと）は、職場にいて職場を守ってください」と言われ、どの特集も取材に行けなかった（笑）。でも、できあがった特集を読むと、とても魅力的な地域に惹かれる覚えがあった。

それから7年の月日が経過した今年に、いよいよ訪れることができた。

庄内地方には、飛行機だと東京から約1時間で空港まで着くのだが、私が住んでいる仙台からだと車で2時間強の時間がかかる。

庄内に着いて、地元の方に名所旧跡、歴史、観光スポットをお伺いしたところ、何とも魅力的なものがたくさんありそうだった。

そして、2日間の時間の許す限り、回らせていただいた。その場所は、鶴岡市立加茂水族館、大山上池・下池（ラムサール条約登録湿地）、鶴ヶ岡城、致道館、致道博物館、松ヶ岡開墾場、羽黒山神社、南洲神社、山居倉庫、本間家旧本邸、本間美術館、竹久夢二美術館。

庄内地方と私の繋がり

様々な場所を回ると、私が以前住んでいた群馬県と鹿児島県と関係があることが分かってきた。

具体的には、①庄内藩は徳川四天王の酒井忠次の酒井家に移ってきた訳だが、その途中で一時期

上野国（群馬県）の藩主をやっていた時期があったこと。②同じく徳川四天王の井伊直政、榊原康政は、それぞれ群馬県の高崎藩、館林藩の藩主だったこと。③江戸時代の終期に、江戸幕府は酒井家に庄内藩から長岡藩に移るように命令を出したが、その時に庄内藩に移るように命じられたのは、前橋藩の松平家だったこと（結局は庄内藩の農民の反対によって、江戸幕府が決定を覆した）。④明治時代に、鶴岡市の松ヶ岡に蚕糸場を開墾する時に、実習に行ったのは、群馬県伊勢崎市（田島弥平）だったこと。⑤酒田市には竹久夢二美術館があるが、群馬県伊香保に竹久夢二記念館があること。

これだけではない。私が高校生の時に住んでいた鹿児島島の英雄である西郷隆盛が庄内藩ではとても尊敬されている事実を再認識した。戊辰戦争の後処理において、西郷隆盛が寛大な対応をしたこともあり、庄内地方では西郷隆盛を敬愛する方が多いようだ。これまで、歴史的な書物では読んでいたが、庄内藩には西郷隆盛を祀った「南洲神社」があるのだ。このため、現在でも鶴岡市と鹿児島市は交流が続けられているとのこと。この事実には、身震いした。

さらに、驚いたことは、様々なメディアでも報道されているが、今年は「家康公検定」が鶴岡市でも受験できるらしい。

物理的な距離は離れているのだが、歴史的な繋がりがある。これこそロマンではないか。

岡山 和裕氏 プロフィール

1969年（昭和44年）生まれ
兵庫県出身。本店15部署のうち8部署を経験したオールラウンダー。東日本大震災では、金融機構局で被災金融機関との連携役を担ったほか、熊本地震では決済機構局業務継続企画課長として現場を指揮。前橋支店長、業務局参事役等を経て、仙台支店長に就任